

トイレ入口



門構えが印象的なトイレ入口。トイレの場所が遠くからでもわかるように、照明を組み込んだトイレサインを設置している。癒しのトイレ空間を演出するために、随所に緑を配している。

男性トイレ 小便器コーナー



尿石の付着やにおいの発生を抑制することができるジアテクト機能付きの節水型の小便器を採用。小便器前の床の段差をなくし、足元には、尿の飛散によるにおいや汚れを軽減するハイドロセラ・フロアを設置。

女性トイレ 全体



動線がスムーズになるように、洗面で手を洗った後、トイレから出ていく人と、お化粧直しをする人と動線を分けたレイアウトとした。洗面エリアには、水濡れを心配せずに荷物を置くことができる棚を設置している。

男性トイレ 洗面コーナー



水濡れを心配せずに荷物を置くことができるように、奥行き250mmの棚を設置。小さなお子様連れに配慮して、男性トイレにもおむつ替え用のベビーシートを設置している。

男性トイレ 大便器ブース



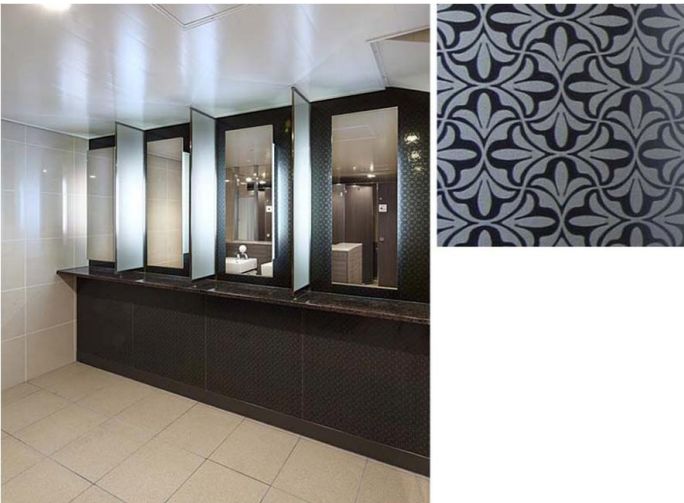
洋式便器にはすべてウォシュレットを設置。1ヶ所のブースには、小さなお子様連れに配慮してベビーチェアを設置している。そのほか、防犯対策として、ブースの間仕切りを天井まで立ち上げている。

女性トイレ 洗面コーナー



洗面コーナーでは、滞留時間の短縮を図るために、化粧鏡は設置していない。向かい側に人が立っても視線が合わないように、ガラスの間に半透明のシートを組み込んだ。近くにベビーシートも設置している。

女性トイレ パウダーコーナー



ゆっくり落ち着いてお化粧直しができるように、間仕切りと照明付の鏡、棚を設置している。壁面には紋様柄のハイドロセラ・ウォールを採用し、メンテナンス性の向上とともに、高級感を演出している。

改修前トイレ



開設後約45年が経過し、老朽化やにおいの問題があった。そのほか、小便器コーナーの床下に配管スペースとして、200mm程度の段差があった。

建築概要

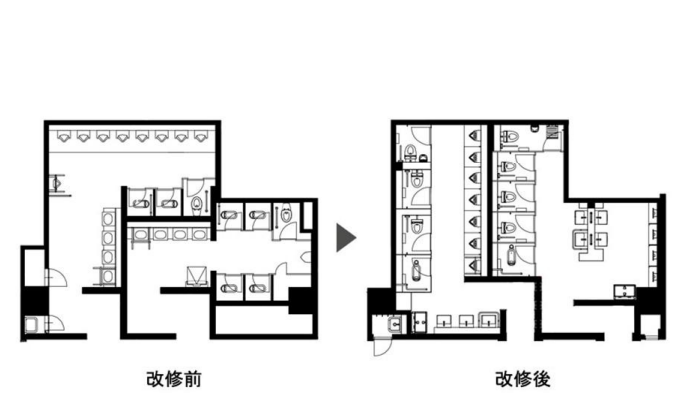
名 称	阪急電鉄梅田駅 茶屋町口トイレ
所 在 地	大阪府大阪市北区芝田1丁目1番2号
施 主	阪急電鉄株式会社
設 計	阪急設計コンサルタント株式会社
施 工	株式会社竹中工務店
工 事 期 間	2014年8月～12月
竣 工 年 月	(改修)2014年12月

女性トイレ ひろびろブース



1ヶ所の大便器ブースには、ベビーカーごと入ることができる、ベビーチェアとフィッティングボードを備えたひろびろブースを設置している。

トイレ図面



大便器ブースの数を減らすずに、和式便器中心のトイレを洋式便器中心のトイレに変更、さらに男女トイレにベビーチェアとベビーシートを備えたひろびろブースを設置している。

水まわりの特長

<改修の経緯>
阪急電鉄梅田駅は、阪急電鉄の前身である箕面有馬電気軌道によって1910年に開業。京都本線と宝塚本線、神戸本線の電車が乗り入れる終着駅で、1日に約54万人(2013年)のお客様に利用されている。
茶屋町口改札は、1969年に開設以来約45年が経過。過去に便器の一部を洋式化するなど、小規模な改修工事は実施していたが、全体的に老朽化やにおいの問題などを抱えていたこともあり、このたびトイレ改修を実施。今回のような、全面的な大規模改修工事は初めてとなる。

<トイレの特長>
「洗練された」をコンセプトに、ブラウン系のタイルや木目調パネルを組み合わせた、上品でおしゃれなトイレ空間を実現。
トイレ改修に当たっては、計画・設計・工事監理に女性社員が携わり、アイランド式の洗面コーナーや独立したパウダーコーナー、間仕切りを天井まで立ち上げ防犯面を高めた大便器ブースなど、女性目線のアイデアが取り入れられている。女性ならではの「こだわり」を持つことで、今まで以上に安心で快適なトイレ空間を実現している。